

村上市景況調査報告

平成31年1～3月期の実績と平成31年4～6月期の見通し

調査時期：2019年3月中旬～2019年4月上旬

調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 166社（回収率83.0%）

〔業種別内訳〕 卸売・小売業62社、建設業41社、製造業30社、飲食店・宿泊業21社、サービス業46社
〔地区別内訳〕 村上地区104社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区19社、山北地区23社

実施機関：村上市地域経済振興課

村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会

分析機関：村上商工会議所

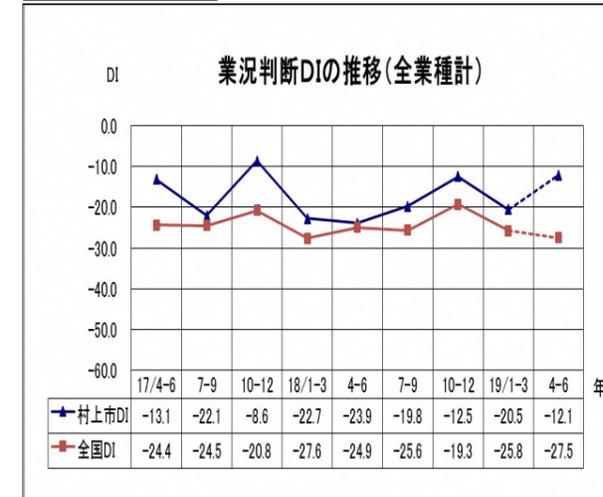
全国状況：全国中小企業動向調査結果【小企業編】（2019.1～3実績、2019.4～6見通し）

日本政策金融公庫 総合研究所

DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合（売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。）

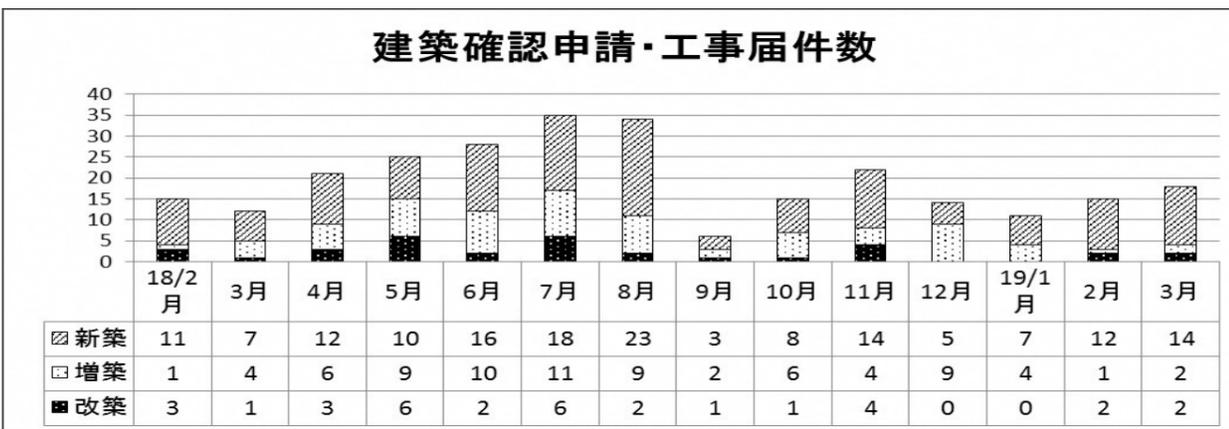
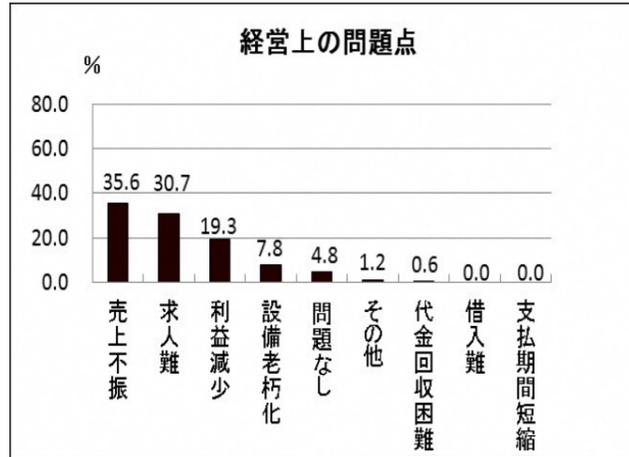
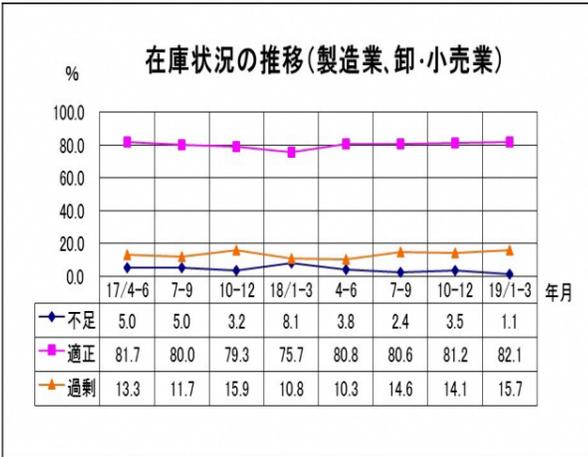
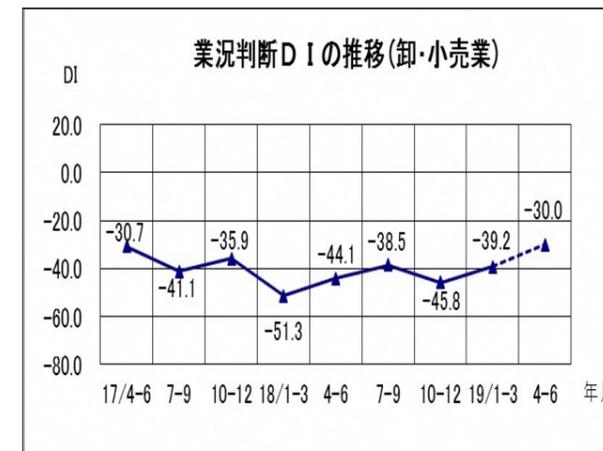
『緩やかに持ち直しているが、先行きは慎重な見方崩れず』

■村上市の業況

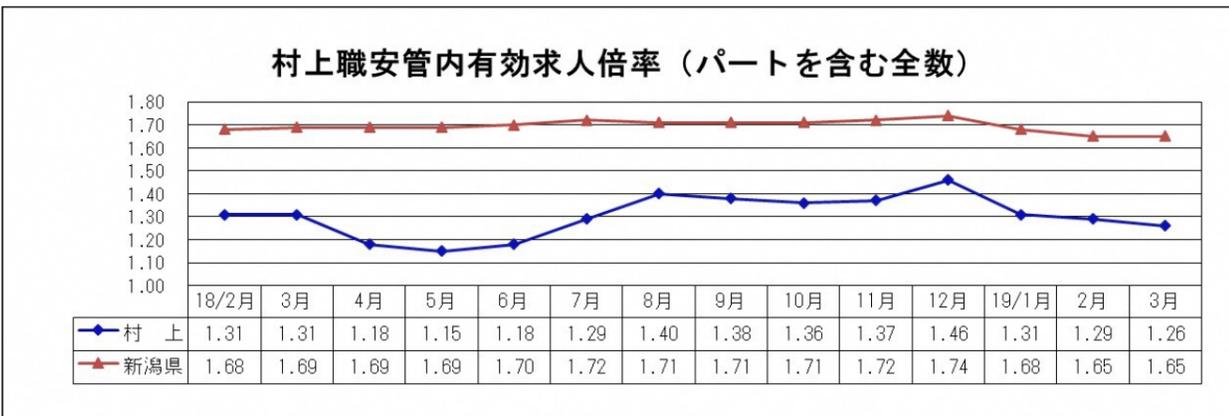


今期(19/1～3月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(18/10～12月期)と比べ、8.0ポイント低下し、▲20.5となった。ただし、前期における今期予測より5.9ポイント上回っており、前年同期比でも2.2ポイント上回っている。今期DIが低下した要因は、建設業、製造業、飲食・宿泊業の3業種でDIが低下したため。

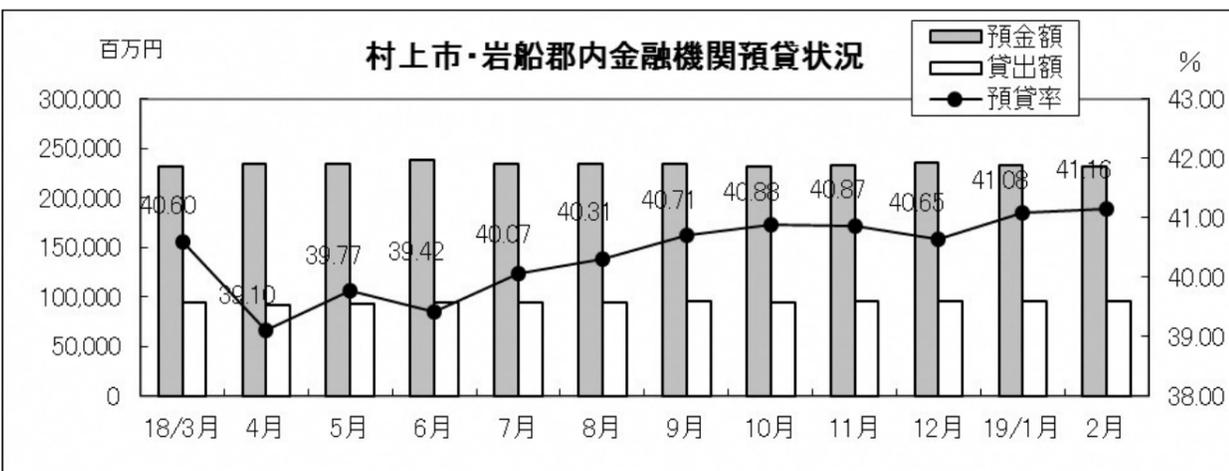
来期(19/4～6月期)については、8.4ポイント上昇し▲12.1となる見通し。卸・小売業、製造業、飲食・宿泊業でDIの改善が見込まれている。10連休や慶典行事、行楽シーズン到来など需要期への期待感が伺える一方で、人手不足の影響の深刻化、原料・包材・運送料値上げによる利益の圧迫、10月からの消費税率引き上げの影響など不透明感が増す中、先行き慎重な見方を崩していない。

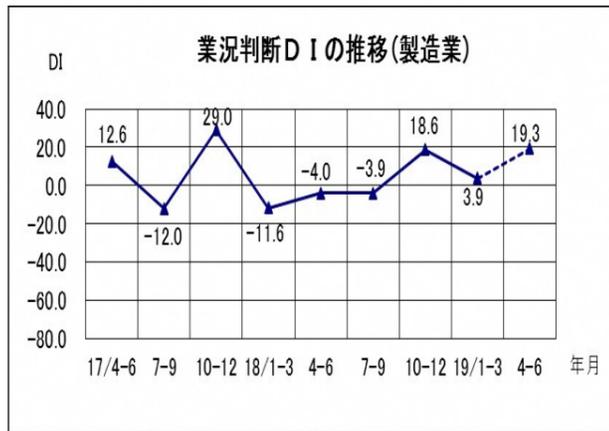


※本データは、新築・増築・改築の申請があった建築確認申請(民間受付含む)と工事届の合算となります。



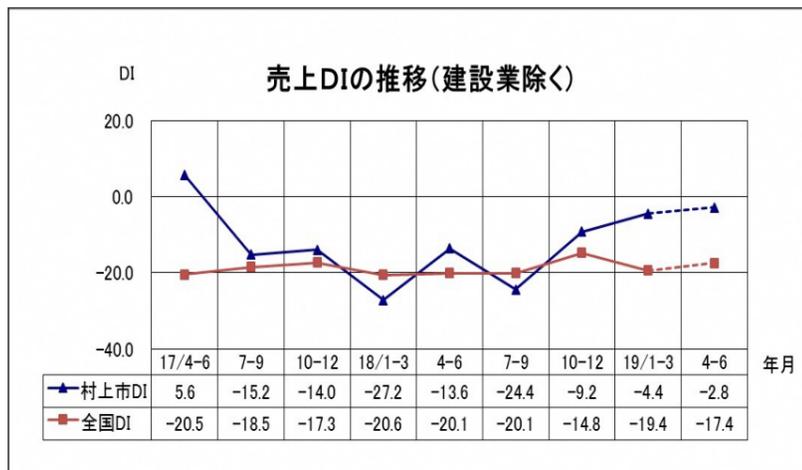
※上記有効求人倍率は、季節調整値再計算により改訂した数値を記載しています。





今期の業種別業況判断DIは前期比で、卸・小売業が、暖冬で大雪の影響もなく独自セールや新商品投入など自助努力等で6.6ポイント、サービス業が顧客獲得や受注拡大等で2.5ポイント、それぞれ上昇した。建設業は受注不振、除雪の売上減少、人手不足等で9.0ポイント、製造業が半導体部品市場の停滞・縮小、受注減少等で14.7ポイント、飲食・宿泊業が需要減退に加え客単価、客数の減少、採算悪化等で44.7ポイント、それぞれ減少した。

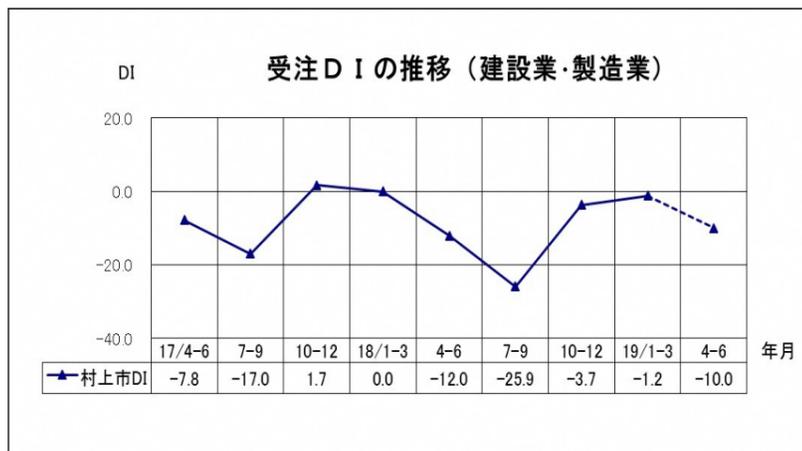
来期は、建設業・サービス業以外でDIが上昇する見通し。寄せられたコメントに①春～初夏に動きが出て来る(卸・小売業)、②学校関連のエアコン設置後は見通しが無い(建設業)、③客先より引き合いが多い(製造業)、④大型連休に期待(飲食・宿泊業)、⑤改元による注文を予定(サービス業)、などがあつた。



今期の売上DI(建設業除く)は、前期に比べ4.8ポイント上昇し、▲4.4となった。上昇は2期連続。前期における今期予測よりも21.8ポイント上回り、前年同期比でも22.8ポイント上回っている。

全国DIは、前期に比べ4.6ポイント低下し▲19.4となった。

来期については、更に1.6ポイント上昇し▲2.8となる見通し。全国DIも、2.0ポイント上昇し▲17.4となる模様。

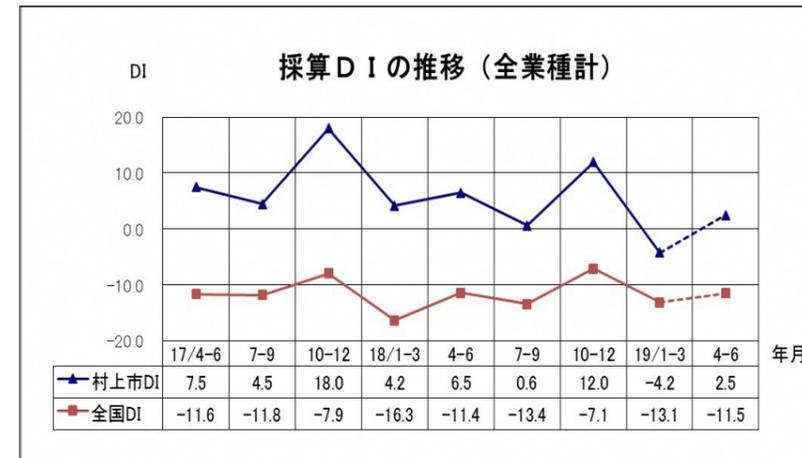


今期の受注DI(建設・製造業)は、前期に比べ2.5ポイント上昇し▲1.2となった。上昇は2期連続。前期における今期予測よりも14.7ポイント上回ったものの、前年同期比では1.2ポイント下回った。

来期については、8.8ポイント低下し▲10.0となる見通し。

〈DI内訳〉

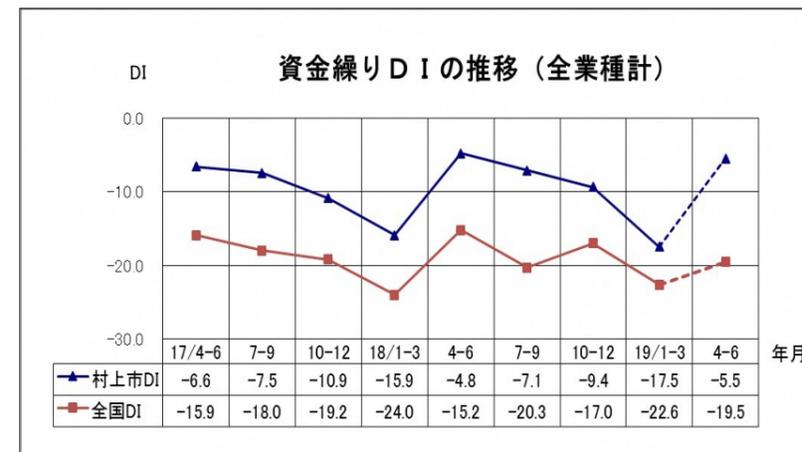
	前期	今期	来期
建設業	▲12.1	▲6.5	▲12.9
製造業	19.2	19.3	23.1



今期の採算DI(全業種計)は前期比16.2ポイントの低下で、▲4.2となった。前期における今期予測より3.4ポイント上回ったものの、前年同期比では8.4ポイント下回った。ここ13期一進一退が続いているが、マイナス圏域への突入は8期振り。

全国DIも6.0ポイント低下し、▲13.1となった。

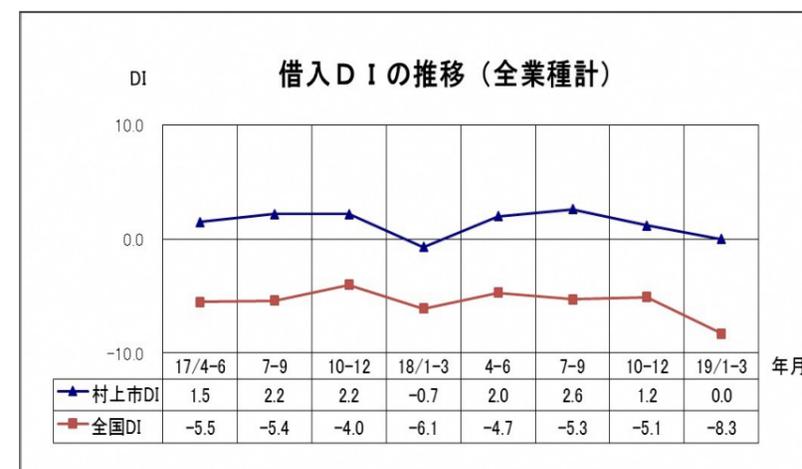
来期については、6.7ポイント上昇し2.5となる見通し。全国DIも1.6ポイント上昇し、▲11.5となる見通しである。



今期の資金繰りDI(全業種計)は前期比8.1ポイントの低下で、▲17.5となった。前期における今期予測より6.2ポイント上回ったものの、前年同期比では1.6ポイント下回っている。低下は3期連続。

全国DIも5.6ポイント低下し、▲22.6となった。

来期については、12.0ポイント上昇し▲5.5となる見通し。全国DIも3.1ポイント上昇し、▲19.5となる見通しである。



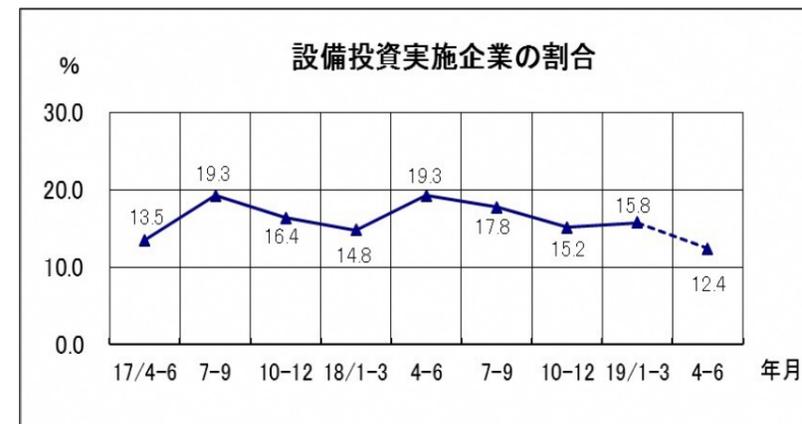
今期の借入DI(全業種計)は、前期と比べ1.2ポイント低下し、±0.0となった。低下は2期連続。

〈内訳は以下の通り〉

「容易になった」
前期 3.1% → 今期 1.8%

「変わらない」
前期 40.6% → 今期 35.0%

「難しくなった」
前期 1.9% → 今期 1.8%



全業種における今期に設備投資した企業の割合は、前期と比べ、0.6ポイント上昇し、15.8%となった。前年同期比でも1.0ポイント上回っている。

来期に設備投資を予定している企業の割合は、3.4ポイント低下し12.4%となる見通しである。